社通信 No,16

西中の社会科としての
授業スタイルができればいいね
西中社会科部会

～とある日の社会科部会～

松島先生の公開授業を見た翌週に社会科部会が行われ、臼杵も参加させてもらったので、そこで話題に上がったことを皆さんにも知ってほしいと思ったので、少し紹介します。

シンキングツールの活用と生徒の主体性

「シンキングツールは形として残らない」という森本先生の話が話題に上がり、道具として使いこなすことの必要性を改めて確認しました。また、塩田先生の実践を踏まえて、理想的には生徒自身がテーマを決める授業（教科における探求型授業）を目指しつつも、まずはシンキングツールの選択権を生徒に委ねるところから始めてみてはどうか、という現実的なアプローチも話し合いました。

学びの土台は整った環境から

授業の前提として、学習規律の大切さを再確認しました。床に落ちたゴミや机上の整理整頓、授業開始時の切り替えなど、学習環境を整えることが思考の整理にもつながります。机間指導の際に、「水筒はカバンにしまおうね」「使わないものは片付けよう」といった声掛けを教師主導で行うことの大切さが話題にあがりました。

班活動を通じた学び合い

学校生活の大半は授業時間です。そのため、班編成の重要性も話題になりました。班長会議で班を決める際に「この班で活動は成り立つか？」という視点が必要です。教員は学力差を把握していますが、生徒自身にもそうした考え方を育てることが、自主的な学び合いにつながっています。

みなさんは『割れ窓理論』という言葉をご存じですか？

とある有名な心理学者がいくつかの都市に「新品の車」と「一部が破損した車」を置き、どうなるのか。という社会実験をしました。

すると、破損した車はさらに壊れ、新車は特に変化がありませんでした。

しかし、研究者が新車の窓を割って放置すると、その車は破壊されるようになりました。

つまり、人間は見た目・環境によって行動や性格が変わっていくということです。

あるベテランの先生は「終礼のあとに、机の配置を整理し、ごみが落ちていたら掃除しながら生徒と話していた」と言っていました。

「環境を整え、それが大事だと思っていることを行動で生徒に示す」それが生徒に伝わっていくと、その先生は考えていたのかもしれません。

『授業』とは「教材（課題）」×（かける）「生徒」×「教師」という３点だけではなく、「教室」という要素も加わっています。 すべてが複雑に重なり合ってこそ、授業が成り立ちます。

ただ・・・「教室」という環境整備は担任が背負うものではありません。

授業者や給食に入った教師、そして学年、学校全体で見ていくべきことだと思っています。

生徒に支援することも大事。自ら行動に移し、生徒に見せることも大事。各々に適した選択で、学習環境を整えていくことを意識してみましょう。

これは塩田先生がくれたやつです！

前に、UDや学習規律の話を塩田先生としたときに「こんなのもあるよ」と資料をもらいました。スペースの関係上、ごく一部の紹介となりますが、興味のある方は塩田先生からもらってください！

「学習力」の必要性

■ 自ら進んで学習に取り組むことのできる子どもたちは、学習の規律を身に付けています。具体的には、時間を守る、よい姿勢を保つ、机上を整理するなど、当たり前のことをきちんと毎日繰り返すことができるのです。

■ 私たち教師が学力向上について議論する際、子どもたちが「獲得した力」を取り上げることが多くなります。その一方で、子どもたちの学習に向かう意欲や態度、学習方法など「学習に向かう力」の育成も図っていくことが大切です。

■ 時間や場所、指導者等が変わっても、自ら進んで「学習する力」のことを「学習力」と呼び、義務教育9年間を通じて、根気強く指導していくことが、子どもの未来を切り拓く近道です。

学 力 ＝ 獲得した力 ＋ 学習に向かう力（「学習力」）

出典
山口県教育委員会
「子どもを知ろう
～学習力向上の基礎～」